M-TEC インフォメーション

181 Vol.
2020 年 1 月

特集：中国で確認された新型ウイルス肺炎

巻頭言

あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、お健やかな新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。例年同じ始まりになりますが、マルマは 1 月が決算月ですので 1 月が年の始まりであり、期の終わりとなります。そして来期の経営計画を作らなければいけない一番ストレスのたまる月でもあります。

来期 57 期も今期同様、人手不足・採用難が他の業種と変わりなく、経営の一番の問題です。今期は何とか 4 名の正社員と 3 名のパートの採用が出来まして、充分ではありませんが、売上はギリギリ昨年を超えられる状態で終われそうですが、本当にギリギリです。マルマの仕事は必ず一定売り上げに対して一人が必要な仕事です。急場しのぎで何とか 1、2 割作業を増やす事が出来たとしても、そう長く続けることは出来ません。負担感で、逆に社員が辞めてしまうことも想定されます。かと言ってお客様からの仕事の依頼を断ることも出来ず、ほんとに頭の痛い問題です。

そしてもう一つ採用対策と並行してやらなければいけないことが、事務や作業の効率化です。その一環として、遅ればせながら昨年より全営業・技術に iPad を配布し、日報や作業報告の自動化を始めました。帰社後の事務処理が削減され、少しは忙しさの緩和に貢献していると思います。また支店への応援体制もルール化し整備し直しました。当然ですが支店でも人手不足で、毎日のように名古屋・大阪へ 2 人 3 人と応援に行ってもらっています。支店での採用は本社以上に難しく、今後もより多くの応援が必要になりそうです。一度募集をすれば 20 人 30 人と応募があった 10 年前が懐かしく思い出されます。

新年初めより 2 名の若者が入社してくれました。二人とも平成 5 年生まれの 26 歳です。実は私がマルマに戻ってきたのも平成 5 年です。入社してくれたことに感謝しつつ、父親の様な感じと歳をとったことを実感し、複雑な思いです。本年もよろしくお願い致します。

株式会社マルマ
代表取締役社長　鈴木雅太郎

MARUMA 株式会社マルマ

中国で確認された新型ウイルス肺炎

先月から中国の湖北省武漢市で、新型のコロナウイルスが原因と思われる肺炎の患者が続出していました。死亡例も出ており、該当地域に渡航される際には行政から発表される情報に注視する必要があります。今回のM-TEC インフォメーションでは、この新型ウイルス肺炎について紹介させていただきます。

新型ウイルス肺炎の発生動向

2019 年 12 月 30 日に中国湖北省武漢市当局から、市内の医療機関で原因不明の肺炎患者が確認されたという発表がありました。症状は発熱や呼吸困難などであり、患者の多くは市中心部にある海鮮市場の店主らでした。中国政府は専門チームを派遣し、感染経路などの調査を行い、原因不明の肺炎であることが分かりました。また、海鮮市場では動物の取り扱いがあったことから、動物が感染源の可能性があり市場は閉鎖されました。

1 月 5 日までに患者数は 59 人になり、そのうち 7 人は重症となっています。患者は医療機関に隔離され治療を受け、患者と濃厚接触した人についても経過観察を行っています。

9 日に WHO(世界保健機関)は、中国衛生当局が「肺炎の原因は新型のコロナウイルスである可能性があると判断した」ことを発表しました。コロナウイルスは身近なものでは風邪、深刻なものでは近年問題になった「SARS(重症急性呼吸器症候群)」、「MERS(中東呼吸器症候群)」の原因にもなるウイルスの種類です。現在のところ「ヒトからヒトへの感染はない」と発表されていますが、11 日には新型ウイルス肺炎を発症した 61 歳の男性が死亡し、今回の新型ウイルス肺炎で初めての死者が出ました。また、13 日にタイでは、武漢市から観光で訪れた中国人女性の新型ウイルス肺炎の発症が発表され、中国国外で初めての患者が確認されたこともあり、依然として注意が必要な状況が継続しています。

年月日	動向
2019/12/12	原因不明の肺炎が発症。
12/30	中国湖北省武漢市当局が原因不明の肺炎患者が相次いで確認されていることを発表。
12/31	中国政府が専門家チームを派遣。
2020/01/01	患者の多くが勤務していた海鮮市場を消毒のため閉鎖。
01/05	患者数が 59 人に達する。うち 7 人が重症。
01/09	WHO が「中国の衛生当局がコロナウイルスの新型である可能性が高いと判断した」ことを発表。
01/11	新型ウイルス肺炎で初めての死亡例（61 歳男性）。
01/13	タイで中国人観光客が発症。中国国外で新型ウイルス肺炎患者が確認されたのは初。

日本の取り組み

今回の新型ウイルス肺炎について厚生労働省は現行の検疫体制の継続の他、帰国された人に対して咳や発熱等の症状がある人は医療機関への受診と滞在歴の申告を呼びかけています。また、現在のところ新型ウイルス肺炎に関わる渡航制限はありません。（※記事の情報は 2020 年 1 月 13 日現在の情報を参考にしています）

近年流行した新興感染症

“新興感染症”とは、最近新しく認知され、局地的にあるいは国際的に公衆衛生上の問題となった感染症のことを指します。今回の新型ウイルス肺炎がこれに該当するかは現時点ではわかりませんが、近年に話題となった新興感染症について、振り返ってみましょう。

感染症名	SARS（重症急性呼吸器症候群）	MERS（中東呼吸器症候群）	鳥インフルエンザ
原因ウイルス	SARS コロナウイルス	MERS コロナウイルス	A 型インフルエンザウイルス
症状	発熱、咳、筋肉痛、悪寒戦慄、呼吸困難を伴う肺炎。下痢などの消化器症状など	発熱、咳、息切れや呼吸困難を伴う急性の重篤な呼吸器症状。下痢などの消化器症状など	結膜炎や下痢、また発熱や咳などインフルエンザ様症状。重篤な肺炎。急性呼吸窮迫症候群など
潜伏期間	2～10 日	2～14 日	2～7 日
感染経路	飛沫感染や接触感染によるヒトーヒト感染。動物が媒介する可能性も	ヒトコブラクダとの濃厚接触。飛沫感染や接触感染によるヒトーヒト感染も	感染した家きんやその排泄物、死体、臓器などとの濃厚な接触。ヒトーヒト感染が疑われる事例も
死亡率	9.6%	約 35%	約 50%
発生・流行年	2002 年 11 月～2003 年 7 月	2012 年 9 月～（断続的）	1997 年～（断続的）
発生地域	中国、香港を中心に世界各国	中東地域が中心	アジア、中東、アフリカ
治療法	対症療法のみ ワクチン無し	対症療法のみ ワクチン無し	インフルエンザ治療薬（タミフルなど）が有効

日常的な感染症予防

上記の新興感染症にはワクチンや特効薬はほとんどなく、予防のためには日常的な感染症予防の対策を実施するしかありません。対策は当たり前のことばかりですが、日常から感染症予防を心掛けましょう。

＜手洗い・うがい＞
外出後や食事前には手洗い・うがいを実施しましょう。口腔粘膜へのウイルスの接触の危険性を低減させる効果があります。

＜消毒＞
手洗い後に手を消毒用アルコールなどで消毒し、ウイルスを殺菌することも重要です。

＜マスクの着用＞
マスクの着用は呼吸器へのウイルス吸入をある程度減らすことができます。また、周りの人への二次感染のリスクを低減させます。

＜体力や免疫力の増強＞
充分な睡眠をとることや健康的な食事がとれていないと体の免疫力が低下し、ウイルスに感染しやすくなります。健康管理に気をつけましょう。

害虫獣紹介

ドバト

ハトは平和の象徴として知られていますが、一方で身近な有害生物としての側面があります。今回はそんなハトのうち、ドバトについて紹介します。

生態

ドバトは中東やアフリカ、ヨーロッパに生息していたカワラバトのうち、一度人に飼育され再び野生化したものです。日本全土に分布しており、町の公園や神社、駅やビル、住宅や施設など、幅広く生息しています。全長は 30-35cm で、羽色は種類が豊富にあり、黒色、白色、赤褐色です。食性は、木の実や植物の種といった種子草食を中心とした雑食性です。ドバトの特徴として、一度に産卵する数は 2 個で、年間の繁殖回数は 3 回以上と繁殖力が強いこと、離れた場所からでも巣に戻る帰巣本能が強いことが挙げられます。

図　ドバト
Columba livia domestica

被害

ドバトは住宅のベランダや建物の雨の当たらない場所などに巣を作ります。近年はソーラーパネル下への営巣も多くなっています。このような場所で、糞尿による汚染、悪臭、騒音被害が起こりやすいです。また、大量の糞が堆積することで、鉄骨などの金属が腐食してしまう場合もあります。その他に、オウム病やクリプトコッカス症などの感染症の媒介やダニの発生源にもなります。

対策

ドバトは「非狩猟鳥獣」ですが、一定の条件を満たせば捕獲が可能です。捕獲には狩猟免許と事前に行政からの許可が必要であるため、専門業者への依頼を推奨します。この時、併せてダニなどの駆除も実施しておきましょう。その他の対策としては、ドバトに餌を与えない、侵入や着地防止のために防鳥ネットやプロテクターを使用する、忌避剤を使用して近寄らせないなどがあります。

食中毒情報

今月は、ノロウイルスを原因とした食中毒が最も多く発生しており、先月と比べて大幅に増加していました。1 件当たり 30 人以上の患者が発生している事件も多くありました。調理従事者からの検出割合が多いため、予防のための健康チェックを怠らないように注意して下さい。

今月は、旋毛虫を原因とした食中毒が発生していました。旋毛虫は、米国では加熱不十分なソーセージなどが感染源になっていますが、日本でもクマ肉での感染例があります。4 ヶ月冷凍保管したクマ肉での発症例もあり、低温に強いことが知られています。今回の事件では、クマ肉は 4 年間も冷凍保管されていましたが、それでも食中毒になってしまいました。肉は、中心まで十分に加熱して食べるようにして下さい。

全国食中毒発生状況
（12/16～1/14 新聞発表分等）

原因物質	事例	感染者数
ノロウイルス	18	745
カンピロバクター	7	82
寄生虫	5	26
サルモネラ	1	17
不明・その他	4	65

『ひとつ，ふたつ･･･快適環境を生み出します』

MARUMA 株式会社マルマ　M TEC エムテック衛生検査所

メールアドレス：info@maruma-ec.co.jp

本　　社　／　〒430-0807　浜松市中区佐藤 2 丁目 5-11
ＴＥＬ：(053)464-6400　ＦＡＸ：(053)465-4120
東京支店　／　〒194-0005　東京都町田市南町田 2-15-14-402
ＴＥＬ：(042)850-6454　ＦＡＸ：(042)850-6456
静岡支店　／　〒422-8046　静岡市駿河区中島 960-1
ＴＥＬ：(054)202-0210　ＦＡＸ：(054)202-0220
名古屋支店　／　〒496-0027　愛知県津島市津島北新開 234-2
ＴＥＬ：(0567)69-4080　ＦＡＸ：(0567)69-4081
関西支店　／　〒658-0026　兵庫県神戸市東灘区魚崎西町 2-4-15
ＴＥＬ：(078)842-6755　ＦＡＸ：(078)858-6802
福岡支店　／　〒814-0161　福岡県福岡市早良区飯倉 5-10-3-102
ＴＥＬ：(092)707-7810　ＦＡＸ：(092)707-7870